

【1、研修に参加した理由】

私は小学生の頃南アフリカに住んでいて、毎週末に家族で国立公園に出向きたくさんの動物を観察していました。その頃から漠然と「大人になったらアフリカのような医療があまり発達していない国で人と動物の間に立つような仕事をしよう」と心に決め、今は人獣共通感染症の研究者を目指して勉強しています。スコットランドの大学はアフリカにおける感染症の研究が非常に盛んで、人獣共通感染症についても世界をリードする存在です。是非その現場を見学させて頂きたい、同じような夢を持った学生と話がしたい、またヨーロッパの最先端の獣医学診療を見てみたいと思い、この研修に応募させて頂きました。

【2、エジンバラ大学の臨床研修プログラム】

エジンバラ大学では2人一組になり、大動物（主に馬）と小動物（犬、猫、エキゾチック）の臨床を見学させて頂きました。

小動物の見学でまず始めに驚いたのは、病院の広さと清潔さです。人間の病院とほぼ変わらないレベルの衛生状態でした。入院室以外は臭いもなく、床に毛も落ちておらず、これが本当に動物病院なのかと疑いたくなる程でした。診療も細かく分野が分かれていてそれぞれに数人ずつ専門の先生がついており、研修医の人数も充実していて診療に余裕があり、一件一件丁寧に診ているのが印象的でした。

大動物はさすがエジンバラ。一人一人の獣医さんが誇りを持って診療しているのがひしひしと伝わってきました。日本ではなかなかお目にかかれない馬の診療を間近に見ることができました。特に慢性 **grass sickness** の新しい治療法を見ることができたのは貴重な体験でした。（写真1参照）大勢の獣医さんと相談しながら治療困難と言われている疾患に立向かっていました。

【3、グラスゴー、スターリング大学の研修プログラム】

グラスゴーとスターリング大学は1日ずつしか見学できませんでしたが、実験室を見て回り（写真3参照）、大学の仕組み（歴史、教育プログラム、研究内容、予算、留学生の数等）についてお話を伺うことができました。

グラスゴーの動物病院は建って一年ということもあり、まさに世界の最先端というべき施設でした。12個もある問診室（写真2参照）、広々としてデザインにも凝っている待合室、吹き抜けがあって明るく開放感にあふれている診療スペース、大きく清潔なケージ…。MRIやCTはもちろんのこと、犬用のバランスボールや車椅子、リハビリ用のプール、照射装置など、まだまだ普及していないものも数多く取り揃えられていました。

大学の仕組みについて興味深かったのはアメリカとヨーロッパの関係です。アメリカでは、イギリスなどヨーロッパの大学で学び取得した獣医師資格をそのまま使うことができるそうです。欧米の獣医教育は非常に密接で、互いに切磋琢磨し向上しているのだという

ことが分かりました。日本もその関係に入っていただけでなく、世界共通の獣医師教育や国際獣医師資格の制度が早くできたらと思いました。

【4、大学外でのプログラム】

スコットランドの研修では大学の中だけでなく、牧場、動物園、博物館、野外学習センター、養殖場なども見学しました。動物園はあいにくの雨でしたが、一つ一つの動物に与えられているスペースが非常に広く、動物がゆったり生活している様子を観察することができました。それぞれの動物の習性をよく考え、それに見合った空間を提供していました。エジンバラ動物園にはゾウがいませんが、それはゾウの行動に適する大きさのスペースを確保できないからだそうです。野外学習センターではカヌー、カヤック、ウィンドサーフィン、セーリングなど、普段なかなか体験できないスポーツをさせて頂きました。(写真4参照)

【5、研究室見学】

今回の研修の正規の内容には含まれていませんでしたが、エジンバラ大学やグラスゴー大学の先生にお願いして研究室の見学をさせて頂きました。アフリカでの活動の話は非常に興味深く、どの先生方も親切にお話して下さいました。ポスドクや学生の方は非常に楽しそうに生き生きと研究について語ってくれました。イギリスへの大学院留学の制度、大学院での生活についても詳しく伺うことができました。今回の研修を通して同じ夢を持つ友達が世界にできたことを非常に嬉しく思っています。

【6、プログラム時間外の生活】

プログラムは朝9時頃から始まり大体17~18時に終わります。その後はフリータイムです。ちょうどエジンバラはフェスティバルシーズンだったこともあり、街はかなり賑わっていました。每晚研修のメンバーでウィスキーを飲みながら語るのはとても楽しかったですし、北大とイギリスの学生の考え方を聞くのは刺激的でした。こうして他大の人、他国の人と語り合う場はそうそうなく、貴重な場を与えてもらったことに感謝しています。(写真5参照)

スコットランドの文化に触れる機会も多くありました。ハイランドゲームの会場に連れて行ってもらったり、夜はスコッチダンスを踊ったり。始めはぎこちなかったダンスも、慣れてくるとなかなか様になるもので、皆汗だくになるまで踊っていました。

【7、失敗したこと】

服装です。日本の秋をイメージして服を持っていきましたが、東京に住んでいる人なら真冬の服を持っていくくらいで丁度いいと思います。私は昼間は暑いかもと思い半袖も持って行きましたが、着る機会はなく、逆にトレーナーやウィンドブレーカーを購入することになりました。また、今回の研修は運良く天気にも恵まれましたが、スコットランドは本来雨がよく降るので、防水性の上着が一着あると非常に便利。降ったりやんだりするので現地の方は滅多に傘はさしません。

【8、まとめ】

この研修を通して世界のレベルの高さを肌で感じると同時に自分の今の状況を客観的に見ることができました。これから自分の夢を実現するためにすべきことがよく分かりましたし、何よりかけがえのない仲間が他大、他国にもできたことを嬉しく思います。お世話になった先生方に心からお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。



写真1 ～grass sickness の治療を受けている馬～



写真2 ～ずらりと並ぶ問診室とデザインの素敵な受付～



写真3 ～グラスゴー大学の研究室～



写真4 ～野外学習センターでウィンドサーフィンを楽しむ人達～



写真5 ～実習後はお酒片手に毎晩楽しくお話！～